

キャリア支援の現場から

キャリア委員長 飛永高秀
(地域包括支援学科教授)

大学生生活4年間を通じたキャリア形成支援

コロナ禍を経て学生の就職活動を取り巻く環境はそれ以前とは随分と変化しました。これからの就職活動は、従来の対面型とオンラインを併用したものの対応が主流となります。コロナ禍においては採用を控えていたサービス業や飲食業、観光関連、航空業界などでは採用再開や採用予定者数の大幅増を既に発表しているところも少なくありません。そのような業界では採用活動の早期化・多様化が予想されるため、企業の情報を注視する必要があります。

本学のキャリア形成支援・就職活動支援は、学科と各学生の志向性によってキャリアプランが大きく異なるという特徴があります。一般企業へ就職する学生は、学科によってその割合は異なりますが、サービス業や金融・保険業、運輸・郵便業、卸業・小売業等の多岐にわたる職種を目指すこととなります。

一方で、取得した資格・免許を活かし専門職として就職する学生も多くいます。文化コミュニケーション学科における中・高校教諭や図書館司書、地域包括支援学科における社会福祉士、精神保健福祉士や介護福祉士などの医療・福祉分野、こども教育保育学科における小学校幼稚園教諭や保育士などがその例です。そして、心理学を専攻する学生の中には、本学大学院への進学を目指し公認心理師を目指す者もいます。

このように本学の学生の就職意向には大きく①一般企業へ就職と②専門的な資格を活かした就職の2つがあります。本学では、これらの学生ニーズに対応したキャリア支援と就職活動への支援を行っています。

さらに本学は2019年度の全学科男女共学化以降、男子学生の数も非常に多くなっています。その中で、公務員に対する志向も増えています。公務員は、国・県・市町村の行政職員から警察・消防、法務、自衛官まで職種が幅広くあり、その受験対策も異なります。カリキュラムで必要な力をすべて身に付けることは難しいため、学外の専門学校等と連携し学習の機会を提供しています。これらの講座は一部を除き、1年次から参加することが可能で、実際に利用者は増加しています。

前述のように企業の採用活動におけるオンラインへの対応が一般化したことで、学生は、オンライン上のマスクなしの表情の写り方など面接を行う際の新たな環境を整える必要があります。本学では2022年度からメイクアップや身だしなみに関する講座も実施しています。

本学での学びをいかに将来の職業人として生かし、繋げていくのがキャリア形成支援・就職支援では重要となります。そのような動機づけを学科の特性と学年を考慮し、必要な時期に必要な内容を随時情報提供し、積極的に関わっていただけるサポート体制づくりを進め、学生の自己実現の一步を応援していきたいと考えています。



自分のキャリアを考えることに“早すぎる”はありません

インターンシップの参加促進

長崎インターンシップ推進協議会が募集するインターンシップのほか、個別の会社訪問を含む就業体験をバックアップ。個別のインターンシップが採用につながるケースもあります。

個性をもったセミナー実施

キャリア形成のヒントになる少人数制のセミナー。何から始めたらいいかわからないなど、学生の今の疑問に向き合います。

学内説明会の受入れと実施

2022年度は80余りの個別企業説明会を学内で実施。より具体的な質問が企業の採用担当者に行き届くよう、少人数制を基本としています。

1年次「フレッシュマン・セミナー」での取組み

働くこと、企業や社会のことについてさまざまなデータを共有し、いずれ訪れる就職活動に向け、大学生生活をどう過ごしていくか、を共に考える授業も展開しています。